

2002/

伊東克己の日記より抜粋

- 1943(昭和18)年 7月10日 早大英語会オラトリカル・コンテスト。伊東(第2学院)2位。
- 8月 第2学院E S S合宿。於志賀高原石の湯山荘。
- 1944(昭和19)年 4月 第2学院の一部は川崎市日本鋼管製鉄所に勤労働員。扇町の寮に入る。伊東は川崎製鉄所本部運輸課鉄鉱石係検収担当。
- 1945(昭和20)年 1月 寮と日本鋼管青年学校で「父帰る」他上演。
- 3月 川崎市昭和電工(1年生を含む他の一部が動員されて勤務していた)で「乞食と夢」上演。
- 3月10日 東京大空襲。動員解除。第2学院修了。
- 4月 商学部入学。1ヵ月授業を受けた。
- 5月 東京海上火災保険会社に戦災保険等の事務要員で勤労働員。
- 6月 現役召集で東部36370部隊桐花隊に入隊。
- 7月 茨城県勝田の駐屯地で足を病む。前橋陸軍予備士官学校に入校命令を受けるが、動けず。大隊医務室で寝たきり。士官学校では伊東が入校日前日の前橋空襲で死んだと噂される。
- 8月15日 終戦。大腿部蜂窩織炎切開手術。麻酔なし。切開部にヨードチンキを浸したガーゼを挿入されて失神。軍医が器材薬品をすべて郷里へ送ったため。
- 9月 伊東内地部隊より復員。病んだ足を引きずりながら学校に行き、部室を開く。田端に英語塾を開く。
- 10月28日 中瀬復員、通訳として鹿屋その他にいた由。復学手続き。藤井復員、将校である。通訳をしている。中村と四人中瀬宅で夜半に到るまで語る。
- 10月29日 オープニング・ミーティング。伊地知、萩原両先生出席。松田、豊田、篠沢、阿山などの先輩も出席。下田復員。
- 10月30日 萩原教授のレッスン 100人教室満員。英語の時代来る。
- 11月 6日 E S S補助金請求書提出。田端で芋パーティー。富田氏が芸者(と知らないで)に South of the Borderを教えている。
- 11月12日 中島先生の命で奥谷さんを高輪に訪ねる。学生会議に出席していた米人学生が軍人として占領軍におり、日本の学生と話をしたいとのこと。英語学生協会の話など聞き、発奮する。
- 11月13日 奥谷氏、中島先生と部室へ来訪。英語学生協会のオルグのようである。学問も何もかも英語で、という。
- 11月14日 住野 South Koreaより復員、部室に出現。
- 11月15日 豊田氏に叱られる。英語ばかりじゃ駄目だと。

- 11月17日 中瀬立川の米兵を招待、我々もご馳走になる。
- 11月18日 立川に行き、米兵を東京ガイド。夜、同基地で映画と酒。
- 11月26日（月）英語会幹事会。
- 11月27日（火）田端塾。
- 11月28日（水）伊地知先生のところへ行きESS予算の仮払いを受け取る。
（¥500.）大学からの補助金と講師の問題について説明を受ける。その後田端。（伊東は会計）。
- 11月30日（金）102教室で12:30からオラトリカル・コンテストを行なう。予め多くのポスターを張り出したので聴衆多数。阿部先生も見えた。伊地知先生にはJUDGEとして来て頂き、後で講評をお願いした。伊東は最初のオレーターであった。住野がチェアマンを務めた。
1等 中瀬、2等 服山、3等 伊東、4等 松本。
賞品がまだ買ってないので、幹事会で決定。
大隈ホールでアフター・ミーティング。その後部室で楽しくすき焼き。
- 12月22日 12月初旬JOAKより英語劇を放送しないかという話があった。まずJOAKの堀江氏から亙理（渡？）先生にこの申し込みがあり、亙理教授が英語会会長の伊地知先生にこの話を持ち込んだのだ。ふたつ返事で引き受けたが、何を演じればよいか分からないので萩原恭平先生に相談したところ、Eden Phillipottsの "Something to Talk about" が良からうとおっしゃる。クリスマス・キャロルをという注文でもあったから、これに決めて、十日ばかりの間に脚本を短縮したり、コピーを作ったり、役者を決めたり、練習をしたりすることになったが、女優が二人必要である。ESSに女子がないので、加藤が早稲田大学女子学生会幹事長の宇佐見さんに掛け合ったところ、田中さんと田上さんを紹介してくれた。加藤が両嬢と交渉したら、田中さんはOKだが、田上さんに断られた。母上が病気のうえに家を移転するからという理由である。田上さんに向山さんを紹介してもらい、上野桜木町のお宅まで伊東と同道して頂き、やっと女優を確保した。その後、4日間 Mrs. Del Re のお宅に通って練習を積み、放送局で2回テストや打ち合せをやって、明日23日ははいよいよ第2放送で4時から本番である。
- 12月28日 放送から5日経ってしまったが、記憶の新しいうちにこの楽

しい出来事を書き留めておこう。

其の日(12月23日)、広田氏が作曲した音楽を演奏する10人ほどのオーケストラと音合わせをやってからいよいよ放送が始まる。別室のアナウンサーの声が遠くに聞こえマイクを囲んで狭いテーブルに座った学生達の緊張が高まる。合図があり、音楽が始まって、中瀬がシーンの説明を読み始め、シナリオどおりクリスマスの朝を告げる午前3時の鐘が鳴る。そして大きな失敗もなく30分のラジオ英語劇は終わった。それは、日本で放送された英語劇としてはおそらく初めてのもので、早稲田の英語会がこれをやったというのは記念すべきことである。二人の女性初めての女子会員になることを約束してくれた。

翌24日我々はDel Re夫人のところにお礼に伺い、そのあと部室でアルコールなしではあったが、楽しいパーティーを開いたのである。

(補記：なにしろ役者をやりたい人が多かったので、伊東は演劇経験者として演出とプロンプターを、中瀬はシーンの読み上げをやったように思う。永井がウルフ、向山さんが、夫人、田中さんが令嬢、あとは記憶がさだかでない。)

1946(昭和21)年1月6日

放送局へ行き、慶応の英語会の諸君に会い、彼らのラジオ・ドラマを聴く。英語はこちらの方がうまいが、芝居は向こうの方がうまい。

部室の窓が破られて、タイプライターを盗まれる。4~5千円もするのに。小野が警察に行ったが、ほとんど相手にしてくれないようだ。

1月7日 中瀬とDel Re夫人のところへ行き、お宅で毎週レッスンをしてくださるようお願いする。

1月17日 中瀬と有楽町で待ち合わせ、Joeを歌舞伎に案内するはずだったが、Joeは来ないし、中瀬が手に入れた切符は昨日のものだった。今日は松本が田端を代講してくれる。

3月 The Student English Association (戦後) 第1回の会合を開く。於早稲田大学。早稲田、慶応、立教、明治、津田塾、東京女子大、日本女子大。要するに、英語会連盟で、加藤、中瀬が駆け廻って作った。

3月18日 田上さんの台本出来上がり、お宅に届ける。

5月19日 慶応で(学生協会)の討論会。

5月 第1週より尾島先生の英文学講座を始める。
 6月13日 オレーション大会。服山1位、中瀬2位、伊東3位。ジャッ
 ジが欠席してしまったので、学部学生による投票で順位を決
 めた。

6月5、6日 英語劇。於大隈記念講堂。
 指導 萩原恭平、Mrs. Del Re。制作演出 伊東克己
 "Stolen Prince"

Long Fo	松本政司
Wing Lee	南谷喜子
The Royal Nurse	木村英子
Hi Tee	永井英輔
Li Mc	田上夕沫
Joy	沢部昌次郎

Two Soldiers of the Royal Court

The Executioner

The Chorus	服山邦雄
------------	------

The Property Man	中瀬正一
------------------	------

The Orchestra 1	有馬 一
-----------------	------

The Orchestra 2	島瀬武雄
-----------------	------

"A Night at an Inn" By Lord Dunsany

Toff	中瀬正一
------	------

Albert	住野喜正
--------	------

Bill	永井英輔
------	------

Sniggers	伊東克己
----------	------

Idol	永井義昭
------	------

Priest 1	松本政司
----------	------

Priest 2	長谷川信
----------	------

Priest 3	沢部昌次郎
----------	-------

(5日の"A Night at an Inn"の舞台では、クライマックスで
 セットが倒れるという事件が起こったが、怪物Idolの出現す
 るところだったので、観客は皆演出だと思ったそう。倒れ
 たセットの窓から住野が首を出して、"What has happened?"
 などと、まだ芝居をしているのも滑稽だったが、萩原先生が
 「幕、幕」と適切な指示を袖で出してくれたので、最後まで
 そんな芝居だと思った人が多かった。)

5月 3月には加藤と中瀬がガーディアン兼務。5月には伊東。

- 7月 箱根旅行
 8月 裏高尾、小下沢から影信山遠足。
 Del Re 夫人宅に英国大使館のRedman氏来たり、7つばかり
 劇のsuggestionを受ける。Royaltiesが各1ポンド1シリン
 グ（要するに1ギニー）必要。
 [ガーディアン：岡の寄稿がGHQのセンサーにかかる。7
 ～8行削られた。]
 9月16～20日 合宿。志賀高原、石の湯山荘。



補記：下記は明細になるので別項とした。すべて1946年6月のドラマに関するものである。

1946(昭和21)年 5月13日 ●Sさん（女性）出演拒絶。●6月5、6日上演と決定。●Del Re先
 生宅で 練習。

5月14日 ●Sさん引き受ける。●萩原先生に科白指導を受ける。●5月21
 日午前9時よりステージ・リハーサル大隈講堂にて行なう予定。
 ●明日より専門部等授業開始の予定につき切符を作って売ること
 にする。2、3百枚は使用可能。●下田君に梗概作成を依頼。

●費用概算

衣装	3着（2日興業…帝劇大沢氏）	¥200.
講堂	電灯代が主である。舞台全部の照明を 含む（電球付き）フットライトを含む。	¥200.
スポット	電球2ヶ（有楽座、借り賃、学院の 畑中氏）	¥200.
ゼラチン	単価 ¥15. 色の選択	?
労賃	舞台大道具、邦楽座白川氏礼金食事付 （外食券2枚）	¥ 50.
研技座謝礼	（大道具借り賃）	¥500.
コールドクリーム		¥ 30.
ドーラン		?
かもし	PIG TAIL用は各人持ち。	
	口紅、白粉、墨	
切符	4,000枚印刷	¥250.

●入場券：幹事及びアクティヴ・メンバーに対しては1名2枚宛
 招待券を渡す。それ以上については会員券（¥2.00）一般会員に
 ついては会員券（¥2.00）一般に対しては¥3.00。招待券、招待状

の送り先については委員会を開く。入場券の管理は庶務係の責任とする。販売は全員協力すること。校内売店、学生同盟、学生協会、各校（大学、中学、女学校）入場券の発行高は4,300枚。

⑦脚本検閲．．マッカーサー司令部、C I & E

●集会、切符．．教務課、戸塚警察、税務署。

●講堂．．教務課

●日本女子大、300枚（女学校も入れて）永井。

●大道具を舞台稽古用に借りること。そのドアを付け替えること

5月14日 ⑦午前11時より午後2時まで劇練習。萩原教授出席。役者は眼鏡を外すこと。⑧次回総ざらい土曜日に決定。⑨切符25日に出来。少し金を出しても20日までに欲しい。長尾に交渉を頼む。●永井に戸塚警察署に行くことを頼む。●明日帝劇に行く予定。午前10時。

5月16日 ●Sさん再び拒絶。止むなく篠沢氏に相談して田中さんを依頼しようとしたら、篠沢氏文学部で見付けてきようと言う。教室を覗き込んで、哲学科1年聖心女学院国文英文両科出身の木村英子さんに白羽の矢を立て、交渉、快諾。●さっそく練習好調。

5月19日 ●午前劇リハーサル●午後慶応で討論会。

5月20日 ●日劇で衣装を借りる。●切符印刷

5月21日 ●大隈講堂にて、午前、Del Re先生、萩原先生出席リハ。
●衣装：日劇4階衣装課岡田課長さん。月末までに揃う予定。金額未定。●大隈講堂借用の件：6日を中島先生に無理して取ってもらった。6月5、6日1回興行、1～5時。●電球500W2ヶ(3ヶ)借用の件：日劇柘植さん（照明）のところへ講堂の石塚さんに名刺を貰って行くこと。●切符の日付変更すること。●営業大道具工作部邦楽座詰担任佐伯高一氏。

5月22日 ●両方ともリハーサル。萩原教授不在につき、伊東演出、抱擁の場面重点。●ポスター描くこと。張りだすこと。喫茶店、校内。消費組合喫茶店。●センサー用原稿急げ。●研技座小張、尾沼来たり、セットは研技座のもので邦楽座のものでないという。松本曰く、あれは研技座のものにあらずと。駆け引き不愉快。1年生に切符を売ってもらわねばならぬ。●中川にドラム、タンブリン借りること。

5月23日 ●切符出来。●Del Re先生、萩原先生でリハ。●英文招待状作成する。タイプは中瀬と露木。●石塚氏との連絡を松本に頼む。●ドーラン入手確実。（田端）●帳簿にポスター紙代、絵の具代、

筆代、プログラム用紙代等記入すること。●研技座に金は劇終了後に渡すむね言う。出来るだけ衝突は避けるべし。●プログラム印刷廻し。

5月24日 午後リハ。

5月25日 ●午前、午後リハ。●センサー用タイプ終了。●上田が持って行く。永井プログラム。

5月26日(日)●Idolのマスク作成(南谷、中瀬、伊東)

5月27日 Del Re先生来る。

5月28日 練習休み。